

会 議 要 録

会 議 名	平成 28 年度第 4 回 小平市青少年問題協議会	
日 時	平成 29 年 3 月 23 日（木）午後 1 時 30 分～午後 3 時	
場 所	小平市役所 6 階 大会議室	
出席者 等	委 員	10 名（欠席者 6 名）
	事務局	子ども家庭部長、家庭支援担当課長、地域学習支援課長、指導主事、健康推進課長、子育て支援課子ども・若者支援担当係長
傍 聴 人	0 名	
会議 内容	1 開 会 2 議 事 （1）小平市子ども・若者の意識・実態調査の結果について 3 情報交換・意見交換 4 閉 会	
配付 資料	会議次第・席次表 小平市子ども・若者の意識・実態調査報告書 小平市ティーンズ相談室「ユッカ」パンフレット ひらく -未来をひらく、心をひらく- ひまわり 「社会を明るくする運動」作文集 こだいら保護司だより 小平市青少年委員だより -はつらつ- 平成 28 年度 第三十四回 小平市中学校生徒意見発表会 青少年育成ハンドブック -平成 28 年- こころの東京革命 花粉症一口メモ 平成 29 年版 たまこだいら食品衛生情報 多摩小平保健所感染症週報 保健所発「あなたにおくる健康情報」	

○ 会議内容等についての意見・質疑応答

1 議事

（1）小平市子ども・若者の意識・実態調査の結果について

委 員 事務局では調査結果を見て、若者の状況をどのように感じているか。

事務局 調査結果を見ると、率直に回答していただいたとの印象を受けている。しかし、回収率を踏まえた上で、これが全てではないという認識は持っていないといけないと感じている。

委 員 他団体が実施した調査と比較できるのか。

事務局 調査票の設計の際に、他団体が実施した項目を参考としているものがあり、比較することはできる。

委 員 何らかの形で他団体が調査した調査と比較できるとよい。

委 員 自分のアンケートの回答が、今後の施策に反映されることがあるとわかれば、

事務局 もっと回答してくれる人が増えるのはでないか。
委 員 調査票には、アンケート実施の目的等を記載した。
事務局 回収率の評価は。
事務局 今回の調査は、20代の方の比重が大きかったため、回収率が低くなることが見込まれたが、結果としてそれほど低いとは感じていない。
委 員 関係団体（関係者）調査の回答者の所属について、配慮が必要では。
事務局 検討する。
委 員 20代への普及、啓発が一番難しいと感じている。今回の調査では一定の回収率があり、この結果は非常に貴重だと思う。

2 情報交換・意見交換

委 員 「ひまわり」という冊子を配布させていただいた。今回で、発行から37年目となる。「ひまわり」は、社会を明るくする運動の一環で、中学生から犯罪予防等の作文を書いてもらい、作文集としてまとめたものである。
今年は、7月1日の社会を明るくする運動強調月間に、中学生に駅頭で宣伝活動をしてもらった。また、小平市民まつりでも社会を明るくする運動のPR活動を行った。「こだいら保護司だより」という冊子も発行し、非行防止に取り組んでいる。
地域での活動が地域の安全や非行防止に非常に重要だと感じている。
委 員 小平第十四小学校で学校支援コーディネーター世話人をしている。地域のいろいろな人と学校をつなぐ役割をしている。活動を通して、昔から地域全体で子どもたちを見守っていると感じた。
調査報告書を見ると、いろいろな方が率直な意見を書かれていて、地域で子どもたちを見守ろうという考えをもっている方がたくさんいることがわかり、地域全体で見守ることが大事だと感じた。
委 員 小学校5年生から青少年リーダー養成講座等の青少年事業に関わり、参加する立場と主催する立場の両方を経験した。市の青少年事業は、地域の人たちや幅広い年齢の子どもたちが関わってなりたっていることを実感した。
今後、青少年事業に関わった経験を生かしていきたいと思う。
委 員 小学校5年生から青少年リーダー養成講座を受講してきた。これがきっかけで大学の教育学科に入り、昨年に卒業論文を書いた。青少年が大学を卒業するまでに自然体験活動に関わる中でどのような効果を得るのかをテーマに研究した。学年が上がるにつれて、リーダーシップ等の効果を多く獲得していることがわかった。研究をするきっかけとなった青少年リーダー養成講座や青少年問題協議会の会議に参加していなかったら、このような意識をもつこともなかったと思う。
委 員 東京都の表彰式に出席し、補導員や青少年委員など青少年に関わっている人がたくさんいることを実感した。自分自身の活動に生かしていけたらと思う。民生委員児童委員は、困っている市民の一番そばにいる立場として動くことを念頭に活動している。子育て家庭や子どもと接する機会があるが、そ

ばにいる、話をきくという立場でしかない。困っていることがあれば、専門機関につなぐということを話している。

調査報告書をみると、市だけでは解決できない問題もあるので、都や国への働きかけもしてほしい。

委員 小学校PTA連合会の代表で参加させていただいた。この1年間、子どもたちがいろいろな人たちに支えられていると感じた。今後、市民として、保護者として、市の事業の行方を見守るなど、これまでの経験を生かしていきたい。

委員 最近、感染性胃腸炎が増加している。インフルエンザのB型も増加傾向にある。感染症には、手洗いが非常に有効である。

食中毒は、冬に多くなる。先日、市立小学校で食中毒があったが、学校の衛生管理がよく、原因の特定を迅速にすることができた。

都の花粉症対策でアンケート調査を実施した。5割近くの人が花粉症であることがわかった。引き続き、花粉症の予防と対策が重要である。

委員 この10年で少年犯罪は減少している。最近、補導されてくる子どもは、見た目では問題性がわからなくなっている。携帯電話やスマートフォンが普及してから、子どもたちの様子が変わり始めていると感じ、心配している。

今回実施した調査を補導されてくる子どもを対象に実施したら、違った結果がでるのではないかと感じた。親に問題があるケースが多々あり、青少年問題は親の問題でもあると思っている。

委員 青少対で地域の活動をしている。子どもと接してきて、子どもたちへの考えが変わってきた。委員として参加し、いろいろな意見を聞き、学ぶ機会となった。朝、通学路であいさつをする活動をしている。あいさつをすることが大切だと感じている。あいさつを通して、相手が見えてくると思う。一年前は、数人しかあいさつを返してくれなかったが、今は子どもたちやまわりの大人からもあいさつをしてくれるようになった。

委員 青少年問題は、多岐にわたっており、どこまで核心に迫れるか、非常に難しい問題と感じている。それぞれの部門や専門、当事者である青少年の委員の方に入っていただき、青少年の問題について話し合うことができた。会議では、各委員の青少年のために行っている活動が違う中、それぞれの立場で、活動している内容や一つのことを話し合うことの意義が素晴らしいと思う。

各委員の活動を通して、小平の青少年が健全に育って、そして、小平市がよりよくなってくれればと思う。